ＳＢＩ日本高配当株式（分配）ファンド（年4回決算型）

月次レポート
販売用資料

愛称 ： ＳＢＩ日本シリーズ-日本高配当株式（分配）

2026年10月30日基準

追加型投信／国内／株式

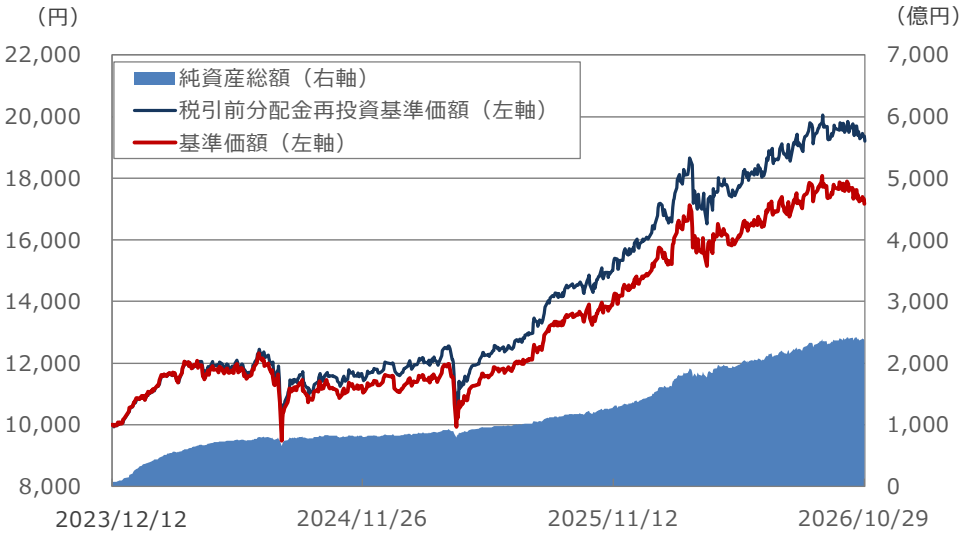
運用実績

基準価額	17,154円	前月末比	▲676円	純資産総額	2,368.75億円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。
※今月は収益分配を行ったため、分配落ちをしています。

ファンド設定日：2023年12月12日

基準価額等の推移



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。
※税引前分配金再投資基準価額は、本ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※当ファンドの設定時を10,000として指数化しています。

資産構成（単位：百万円）

ファンド	金額	比率
マザーファンド	236,886	100.0%
現金等	-11	0.0%

マザーファンド	金額	比率
国内株式	244,182	96.8%
株式先物	1,979	0.8%

※比率は純資産総額に対する割合です。
※本ファンドは、ＳＢＩ日本高配当株式マザーファンドを通じて実質的に株式に投資しています。
※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

	設定来	１カ月	３カ月	６カ月	１年	３年	５年
ファンド	91.92%	-2.97%	0.38%	9.93%	28.35%	－	－

※ファンドの期間収益率は税引前分配金を再投資したものとして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

収益分配金（税引前）推移

決算期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	設定来累計
決算日	2025/10/10	2026/1/13	2026/4/10	2026/7/10	2026/10/13	
分配金	130円	140円	140円	140円	150円	1,490円

※収益分配金は1万口当たりの金額です。
※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

ＳＢＩ日本高配当株式（分配）ファンド（年4回決算型）

月次レポート
販売用資料

愛称 ： ＳＢＩ日本シリーズ-日本高配当株式（分配）

2026年10月30日基準

追加型投信／国内／株式

マザーファンドの状況

ポートフォリオの状況

株式組入比率	96.83%

配当利回り	3.11%

PBR（倍）	1.80

ROE	11.44%

※配当利回り、PBR（倍）、ROEはマザーファンドの株式の評価額の合計に対する比率で加重平均しています。

組入上位30銘柄

組入銘柄数：111

	証券コード	銘柄名	業種	比率	配当利回り
1	8306	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	3.68%	2.49%
2	9434	ソフトバンク	情報・通信業	3.08%	3.71%
3	8316	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.02%	2.43%
4	2914	日本たばこ産業	食料品	2.13%	3.67%
5	8058	三菱商事	卸売業	1.99%	2.29%
6	4502	武田薬品工業	医薬品	1.92%	3.04%
7	8725	ＭＳ＆ＡＤインシュアランスグループホールディングス	保険業	1.86%	2.38%
8	4503	アステラス製薬	医薬品	1.76%	3.03%
9	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	1.59%	3.09%
10	8750	第一ライフグループ	保険業	1.58%	3.02%
11	7337	ひろぎんホールディングス	銀行業	1.53%	2.65%
12	8766	東京海上ホールディングス	保険業	1.51%	2.51%
13	7762	シチズン時計	精密機器	1.50%	2.15%
14	9101	日本郵船	海運業	1.47%	2.72%
15	8020	兼松	卸売業	1.44%	2.73%
16	3107	ダイワボウホールディングス	卸売業	1.43%	2.76%
17	642A	キューデンホールディングス	電気・ガス業	1.37%	2.54%
18	6592	マブチモーター	電気機器	1.36%	4.01%
19	7751	キヤノン	電気機器	1.18%	3.37%
20	7267	本田技研工業	輸送用機器	1.16%	3.92%
21	5831	しずおかフィナンシャルグループ	銀行業	1.13%	2.61%
22	2502	アサヒグループホールディングス	食料品	1.11%	3.15%
23	641A	ＮＯＫ　Ｇｒｏｕｐ	輸送用機器	1.11%	－
24	1605	ＩＮＰＥＸ	鉱業	1.10%	2.61%
25	2503	キリンホールディングス	食料品	1.10%	2.59%
26	8252	丸井グループ	小売業	1.09%	4.69%
27	5105	ＴＯＹＯ　ＴＩＲＥ	ゴム製品	1.09%	3.23%
28	9744	メイテックグループホールディングス	サービス業	1.06%	5.98%
29	8411	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.02%	1.87%
30	4208	ＵＢＥ	化学	1.02%	3.38%

業種別組入比率

	業種	比率
1	銀行業	11.75%
2	電気機器	9.94%
3	輸送用機器	8.48%
4	化学	7.45%
5	卸売業	6.72%
6	保険業	5.50%
7	情報・通信業	5.34%
8	医薬品	4.57%
9	食料品	4.35%
10	機械	3.96%
11	建設業	3.73%
12	ガラス・土石製品	3.09%
13	精密機器	3.09%
14	鉄鋼	2.70%
15	小売業	2.48%
16	海運業	2.36%
17	サービス業	1.82%
18	その他製品	1.71%
19	ゴム製品	1.45%
20	電気・ガス業	1.37%
21	不動産業	1.33%
22	鉱業	1.10%
23	石油・石炭製品	0.94%
24	証券、商品先物取引業	0.90%
25	繊維製品	0.52%
26	非鉄金属	0.18%
27	－	－
28	－	－
29	－	－
30	－	－

※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行っているため、マザーファンドの運用状況を表示しています。
※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
※配当利回りは過去12か月間の配当落ち後の1株当り配当額の合計を基準日の株価で割った値です。
※LSEG等のデータを基に当社作成

市場動向及び今後の展望と運用方針

当月の市場動向

10月の日本株市場は、米国の金融政策や日本の長期金利の落ち着きに加え、企業業績への期待を背景に堅調なスタートとなりました。特に、AI関連投資やデータセンター需要の拡大期待を背景に半導体関連銘柄が買われたほか、円安進行も支援材料となり、株式市場は上昇しました。

一方で、月後半にかけては米国の長期金利上昇や高値警戒感から利益確定売りが優勢となり、相場は一進一退の展開となりました。また、日米の金融政策を巡る思惑や今後の景気動向に対する見方が交錯するなか、投資家の様子見姿勢も強まりました。

そのような環境のなかでも、企業業績は総じて底堅く推移しており、好業績銘柄を中心に物色される一方で、これまで大きく上昇してきた銘柄には利益確定売りがみられるなど、銘柄ごとの選別色が強まりました。月末にかけてはTOPIXの定期見直しに伴う需給要因も意識されましたが、市場全体としてはもみ合いの展開が続くなか、月間では下落して月末を迎えました。

大型株では、DX需要を背景に「野村総合研究所」が上昇したほか、底堅いレジャー需要を背景に「オリエンタルランド」も上昇しました。一方で、利益確定売りなどから「ソフトバンクグループ」や「フジクラ」は下落しました。

東証33業種では、堅調な国内需要を背景に「サービス業」が上昇したほか、ディフェンシブ性が評価された「医薬品」、市況改善期待などを背景に「海運業」も上昇しました。一方で、利益確定売りなどから「非鉄金属」や「機械」が下落したほか、金利上昇一服への見方から「銀行業」も軟調に推移しました。

当月の指数動向は、TOPIX（配当込み）が▲3.48%、日経平均株価が▲5.19%、東証グロース市場250指数（旧東証マザーズ指数）が▲2.46%となりました。

ファンドの運用状況

10月は、市場の代表的指標であるTOPIXが▲3.49%（配当込みTOPIX▲3.48%）、ファンドのパフォーマンスも▲2.97%（税引前分配金再投資基準価額ベース）と下落しました。市場環境としては、好決算を発表した医薬品株や、中東地域における地政学リスクの高まりを受けた原油価格の上昇を背景に、資源関連株が上昇した一方で、これまで上昇していたAI関連株やデータセンター関連株、銀行株は利益確定売りに押され下落しました。

組入銘柄では、好決算期待から「武田薬品工業」や「アステラス製薬」などの医薬品株に加え、原油価格の上昇を背景に「INPEX」が上昇しました。一方で、先月までの株価上昇を受けて利益確定売りに押された「三菱UFJフィナンシャル・グループ」や「三井住友フィナンシャルグループ」などの銀行株のほか、データセンター関連の「FUJI」、公募増資を発表した「インフロニア・ホールディングス」が下落しました。

主な投資行動としては、自動車関連銘柄の中で出遅れ感が顕著で配当利回りに魅力のある「デンソー」を新規に組み入れたほか、株価下落により配当利回りの魅力が高まった「三井住友フィナンシャルグループ」や、好決算が期待された「ピジョン」のウェイトを引き上げました。一方で、半導体関連の「SCREENホールディングス」や、公募増資による需給悪化や1株当たり利益の希薄化懸念を考慮して「インフロニア・ホールディングス」のウェイトを引き下げました。

※コメント内に記載の企業は、ファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

今後の運用方針

10月の日本株市場では、これまで市場を牽引してきた半導体関連株や銀行株が、月末にかけて利益確定売りに押されました。特に半導体関連株は、11月3日の米国中間選挙を前に民主党優勢との報道を受け、データセンター関連規制への懸念が高まったことから大きく下落しました。データセンター規制の動向には注意が必要であるものの、半導体部材関連銘柄のPERなどの株価指標は依然として割安な水準にあり、増配も期待されることから保有を継続する方針です。銀行株についても、PERなどの株価指標は依然として割安な水準にあり、利上げによる収益改善や、それに伴う増配が期待できると考えています。また、これまでの株価調整により、配当利回りの面で魅力が高まってきた内需関連銘柄にも注目していきます。

私どもは引き続き、収益性に優れ、安定した配当政策を有する企業への投資を行うことで、インカムゲインの獲得とともに、中長期的なパフォーマンスの向上を目指してまいります。

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。本ファンドの基準価額の主な変動要因としては以下のものがあります。なお、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

主な変動要因

株価変動リスク	一般に株価は政治・経済情勢や発行企業の業績等の影響を受け変動しますので、組入れる株式の価格が変動し、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
信用リスク	組入れる金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被る可能性があります。また、金融商品等の取引相手方にデフォルト（債務不履行）が生じた場合等、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
流動性リスク	組入れる金融商品等の市場規模が小さく取引量が限られる場合などには、機動的に売買できない可能性があります。また、保有する金融商品等が期待された価格で処分できず、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 有価証券の貸付取引を行う場合は、取引先リスク（取引の相手方（レンディング・エージェントを含みます。）の倒産等により契約が不履行になること）が生じる可能性があります。
- 投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- 本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該運用方式には運用の効率性等の利点がありますが、投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じ、マザーファンドの組入れ有価証券に売買等が生じた場合等には、本ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。

リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。
流動性リスクの管理においては、委託会社が規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額（ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降のお支払いとなります。
購入・換金申込受付不可日	ありません。
申込締切時間	原則として、午後３時30分までとします。なお、受付時間を過ぎてからの申込みは翌営業日の受付分として取扱います。 (受付時間は販売会社によって異なることもありますのでご注意ください。)
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金（解約）の申込の受付を中止すること及び既に受付けた購入・換金（解約）の申込の受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：2023年12月12日）
繰上償還	次の場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。 ・信託財産の純資産総額が10 億円を下回ることとなった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のために有利であると認めるとき ・その他やむを得ない事情が発生したとき
決算日	原則として毎年1月、4月、7月ならびに10月の各10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年4回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ※販売会社によっては、分配金の再投資コースを設けています。詳しくは販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度） の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 ※ 税制が改正された場合には、変更となる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家にご確認されることをお勧めします。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に年0.099%（税抜：年0.090%）を乗じて得た額とします。信託報酬は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 （有価証券の貸付の指図を行った場合） 有価証券の貸付の指図を行った場合には品貸料がファンドの収益として計上されます。 その収益の一部を委託会社と受託会社が受け取ります。 この場合、ファンドの品貸料およびマザーファンドの品貸料のうちファンドに属するとみなした額の55.0%（税抜 50.0%）以内の額が上記の運用管理費用（信託報酬）に追加されます。 ※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります。
その他の費用 及び手数料	信託財産にかかる監査報酬、信託事務の処理に要する諸費用、法定書類（目論見書、運用報告書等）の作成・印刷・交付にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等の費用は、原則として受益者の負担とし、信託財産中から支払われます。なお、これらの費用は、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
上記の費用等については、本書作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

委託会社、その他関係法人

委託会社	ＳＢＩアセットマネジメント株式会社　（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第311号　加入協会/一般社団法人　資産運用業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社　（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。　（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

販売会社一覧

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	一般社団法人日本STO協会
株式会社ＳＢＩ証券※1	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○
マネックス証券株式会社※2	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○	○
株式会社ＳＢＩ新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○	○			
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○				
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○	○			

■販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。
※1 株式会社ＳＢＩ証券は上記協会のほか、日本商品先物取引協会および一般社団法人日本暗号資産等取引業協会にも加入しております。
※2 マネックス証券株式会社は上記協会のほか、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会にも加入しております。

本資料のご留意点

○本資料は、ＳＢＩアセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料で、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
○本資料は、ＳＢＩアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。
○お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。